

2022(令和4)年度 入学試験問題

東大・医進クラス 2月1日 AM

適性検査 I

注 意

- (1) 指示があるまで表紙を開かないこと。
- (2) 問題および解答用紙の両方に受験番号・座席番号を記入すること。
- (3) 声を出して読まないこと。
- (4) 解答は解答用紙の所定の欄らんに記入すること。

受験番号	
座席番号	

1

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

ぼくたちは、逃げるのがひきょうだという。また、そう思っている。それが、ぼくたちに、逃げるのをやめさせ、こわいものとたたかう衝動を起させる。もちろん、この衝動も、人間の自己防衛の本能につながっている。

しかし、その衝動が、むやみにとびだして来たらかえって危険だ。逃げようにも逃げられないとき、たたかわなければ、殺されるのを待つしかない。そのときに、たたかう強い衝動が起る。たたかえばかならず勝つとはかぎらないが、それでも、相手をちよつとひるませて、逃げる機会を見つけることができるかもしれない。確実にたすかるとはいえないが、確実に死んでしまうよりはいい。弱いものが、自分より強いとわかっているものとたたかうのは、じつは、逃げ道を捜すために、それが必要だからだ。それが、自然が弱い動物にも、たたかう衝動を与えた理由のひとつなのだ。自然の知恵のひとつともいえる。

ところで、人間は、社会生活をしているので、自然の敵と出会うて逃げたり、たたかったりすることはない。そういう大昔からの衝動を、そのまま行動にあらわすことはなくなっている。そして、社会生活に必要なように、さいしょの衝動をおさえて、べつの目的に向かう衝動を起させている。

君が、学校から帰るとちゅうで、いじめっ子らしいこどもに出会うとする。相手は強そうだ。なんとなくこわい感じがする。そのとき、自分のところの中に浮かんできくる衝動を、君は見つめるがいい。だれも、君といっしょにいなかったら、君はすこし遠まわりでも、まわり道をして帰るだろう。相手にならないのが、りこうだ。

しかし、君が、だれか君の知っているなかまといっしょだったら、どうだろうか。そのなかまに、ひきょう者だと思われるのがいやな場合だったら、君は、知らぬ顔で、そのいじめっ子がいる道を、通つていこうとするだろうと思う。「おまえは、弱虫だから、あいつのいる道を通れないだろう。だらしねえな」なんて、そのなかまがいえば、なおさら、まわり道をしくくなる。相手に勝てる自信がなくとも、なんとかして、相手に向かつていかなければならないような気持がわいてくる。

こんなことは、想像すればわかることだが、じつさいにも似たような経験をしたものが多いだろう。そのときの、君のこのころの中に起つていることを、図式のようにして考えてみたらいい。まず、相手がこわいという感情がおこり、それが君に逃げたい衝動を与える。しかし、逃げたらひきょうだ、弱虫だといわれる、別のなかまから軽蔑されることのこわさが、同時に君のこのころに生まれる。その二つめのこわさが、君に逃げる衝動をおさえて、べ

つの反対の行動へまっすぐ進ませる。こわいものに挑戦させる衝動を、起させるのだ。

ぼくは、前のところで、こわさのこわさという話をした。そこで罰のこわさのことについて説明した。自然の危険の直接のこわさと、罰のこわさによって教えられたこわさのことを、そこで君たちに話したのだった。人間は、ひとりで自然と向かいあっているのではなくて、社会というグループを作って、全体で自然と向かいあっている。社会のまとまりは、グループとして自分をまとめるためには必要だ。だから、そのまとまりを作るために、ある規則が必要になる。そして、その規則は罰のこわさによって教えこまれる。その規則は、ひとりひとりの危険とは直接の関係がない。しかし、それが破られて、まとまりがなくなると、社会全体が危険にさらされる。それは、それに属するひとりひとりを、間接に危険におとしいれることになる。しかし、社会の規則の中には、社会の環境が変って、はじめには意味のあったものでも、いまではなんの意味もなくなっている場合がある。しかし、それでも規則は規則として残っている。

君が、いじめっ子の前で感じた二つのこわさの、ひとつは自然のこわさで、もうひとつは社会から罰を受け、のけものにされるというこわさだった。そして、そこで二つのこわさがたたかひあうことになった。そのどちらが勝つかによって、それとつながり

を持った衝動が、行動となってすがたを現わすことになるのだ。それを、自然のままの人間の本能と、社会を作っている人間の本能のあらそいと見ることもできるだろう。

逃げださずにたたかうこの気持は、ぼくたちの社会では、勇気という名まえで呼ばれている。そして、逃げたい気持を、ひきょうだとか、おくびようだとか呼ぶ。ぼくたちの社会は、前のほうの衝動をりっぱなものと考え、あとのほうの衝動を価値の低いものだとしている。しかし、こうして、こころの底をのぞいてみると、ただいいとか悪いとかで、かたづけられるべきものでないことがわかるだろう。勇気だとか、おくびようだとかは、人間にしか問題にならない価値、社会的な価値である。

少しへソまがりな逆の見かたをすると、自然の人間の本能からでた衝動は強い。そのままだったら、人間はこわいものに出会ったら、みんな勝手に逃げだしてしまい、社会はくずれてしまう。社会というグループ全体として、自分たちをまもることなど、できはしないだろう。だから、その強い自然の衝動に勝つために、逃げずにたたかう衝動を、勇気と呼んではげまし、逃げだす衝動をおくびようと呼んで、おさえつける必要がある。

君が、離れ小島にひとりで流れついて生活しているときは、こわいものからは逃げ、自分を守ることは当然だと感じるだろう。逆に、自分の行動が、ほかの人間に注意ぶかく見まもられている

ことを感じれば、かつこよく、勇氣があるようにふるまわなければならぬと感じる。そのちがいがでてくるのは当然なのだ。

こうして、^① 勇氣というものは、どういう理由で、どんな場合に、何を目的にしたものかを考えないと、しばしば、ぼくたちをむだに危険にさらすだけのことにおわる。ぼくたちを意味のない危険にさらし、むりをさせ、ばかげたことをしでかさせる。ときには、おくびようものと呼ばれてもいいから、かしく逃げだして危険をさけるほうが、ずっと強いところの力を必要とすることだつてある。そのことを、君たちは、よく考えてみる必要がある。

勇氣が社会的な価値を持ったものだということは、昔、社会に、さむらいや、百姓や、町人などの階級があつた時代、さむらいがもつとも勇氣があることを要求されたことをみればわかる。さむらいは、おくびよう者と呼ばれることを、死ぬよりもおそれていた。おなじような場合に、町人なら逃げだしても当然なのに、さむらいは逃げられずに、自分から死なねばならなかつた。こうして、つまらぬ原因から、さむらいのメンツをたもつために、殺し合いをして死んでいったものが、どれほどいたか。

こうやって考えてみればわかることだが、全部が全部そうたとはいわないけれども、勇氣と呼ぶものも、じつは、こわさの一種

だということができらるだろう。社会の罰をうけるこわさが、勇氣のある行動と呼ばれるものに、人間たちをかりたてるといふわけだ。つまり、こわさにも、二種類ある。^② 自然のままの人間のこわさと、社会の人間として持つこわさだ。社会と個人が、いつもおなじ敵をもっていれば問題はないのだけれど、ときには、社会が個人にとって敵になることもある。そこから、ひとりの人間の中心で、二つの衝動の対立がうまれてくる。

このことは、べつのところでも、もういちど考えてみなければならなくなるだろう。

ぼくは、昔、軍人になるための学校にちよつとばかりいたことがある。それで知つたのだが、どこの国の軍隊も、逃げることを兵隊に教えない。おかしなことだ。逃げるのは、本能的にやれということなのだろうか。社会的にも、逃げるのが意味のある場合は、たくさんあると思うのだが。むだに命をすてないために生きるということは、社会のためにもたいせつだと、君は思わないだろうか。

^X ぼくは君たちに、逃げることの意味を、このあたりで、すこし考えてもらいたいと思う。

(なだいなだ『心の底をのぞいたら』より)

〔問題1〕

——線①「勇気というものは、どういう理由で、どんな場合に、何を目的にしたものか」とありますが、「勇気」について筆者はどのように考えていますか。

次の説明文の A ～ D にふさわしい言葉を、本文中から指定の字数で抜き出しなさい。

人間はこわいものや危険なものに出会うと人間の

A (二字) から出た衝動で逃げだしてしまうが、

それだと社会はくずれてしまうので、逃げだす衝動を

B (五字) だというように呼び、また C (六字)

の危険とは直接関係がなくても逃げださずにたたかう

気持ちのことを勇気と呼び、後者に D (三字) な

価値をおくことで社会全体をまもろうとしている。

〔問題2〕

——線②「自然のままの人間のこわさと、社会の人間として持つこわさ」とありますが、その二つの「こわさ」の内容と関係について、本文の言葉を使って、五十文字以上七十文字以内で説明しなさい。

なお、や。や」なども、それぞれ字数に数え、一まずめから書き始めること。

〔問題3〕

——線X「ぼくは君たちに、逃げることの意味を、このあたりで、すこし考えてもらいたいと思う。」とありますが、あなた自身は「逃げることの意味」についてどのように考えますか。本文に書いてあることをふまえ、「手順」と「きまり」にしたがって、四百字以上五百字以内で説明しなさい。

〔手順〕

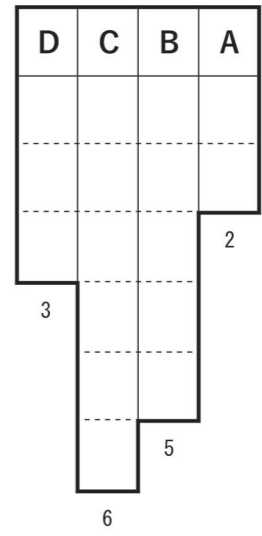
- 1 「逃げることの意味」について筆者の考えを説明する。
- 2 「逃げることの意味」についてあなたの考えを説明する。
- 3 2を書くにあたってあなたの経験や具体例をまじえて説明する。

〔きまり〕

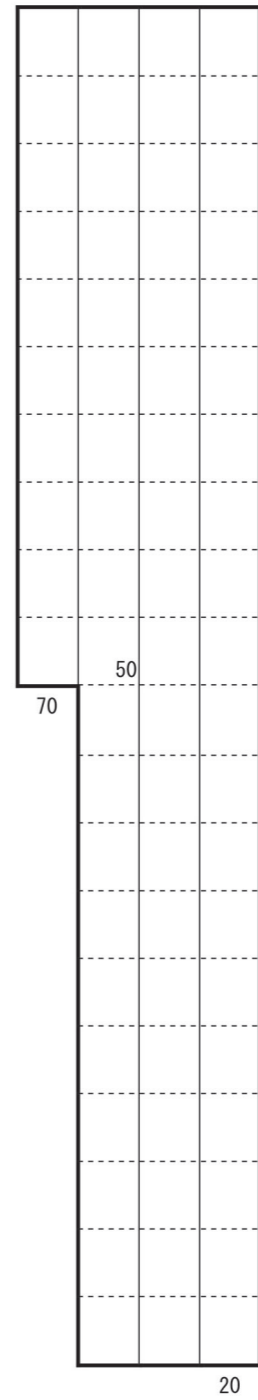
- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように書きます。(まずめの下に書いてもかまいません。)
- 。と」が続く場合には、同じまずめに書いてもかまいません。この場合、。で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのまずめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのまずめは、字数として数えません。

1

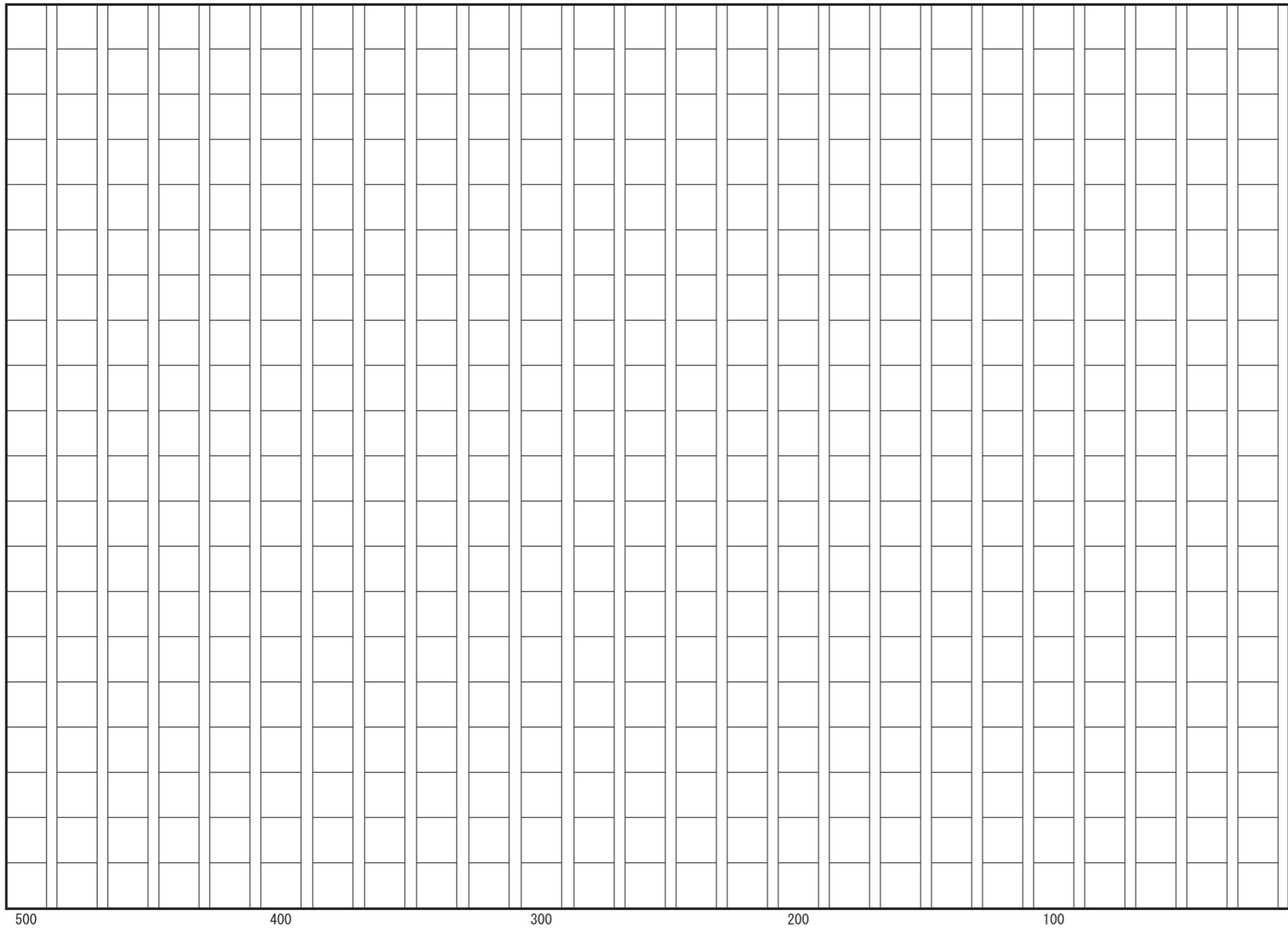
【問題1】



【問題2】



【問題3】



総得点
／100

座席番号

受験番号

〔問題1〕

D	C	B	A
社	ひ	お	本
会	と	く	能
的	り	び	2
3	ひ	よ	
	と	う	5
	り		6

〔問題2〕

	ち	会	自
	の	の	然
	な	罰	の
	か	を	危
	で	う	険
	た	け	か
	た	る	ら
	か	こ	逃
	い	と	げ
	合	の	た
70	っ	こ	い
	て	わ	と
	い	さ	思
	る	と	う
	関	が	こ
	係	人	わ
	に	間	さ
	あ	の	と
	る	気	、
	。持	持	社
60			
40			
20			

〔問題3〕

なり	る	を	を	気		ま	も	そ	果	れ	た	い	の	生	は	い			会	ん	的	会	識	
り	こ	冷	す	を	こ	い	で	の	と	る	の	ち	合	と	毎	ク	私	私	の	あ	に	の	が	筆
た	と	静	す	持	の	本	き	せ	し	こ	だ	や	宿	い	年	ラ	は	も	為	り	も	安	、	者
い	を	に	す	つ	経	当	な	い	て	と	が	先	で	っ	夏	ブ	小	逃	に	、	逃	全	逃	は
と	す	判	め	こ	験	に	か	で	私	が	、	輩	私	し	休	に	学	げ	無	げ	を	げ	、	
思	す	断	て	と	か	後	っ	小	は	嫌	私	は	は	よ	み	入	校	る	駄	る	保	に	逃	
う	め	し	れ	を	ら	悔	た	学	本	で	は	練	途	に	に	っ	に	こ	切	に	つ	に	逃	
。	る	て	た	学	私	し	。	校	格	練	休	習	中	行	合	入	こ	と	で	命	と	面	逃	
	こ	、	コ	ん	は	て	チ	の	的	習	む	で	う	う	宿	っ	の	は	を	捨	に	が	逃	
	と	必	ー	だ	必	い	ム	引	に	を	こ	足	の	で	し	た	必	な	て	意	あ	た	こ	
	が	要	チ	。	要	る	に	退	ひ	続	と	を	で	練	い	だ	性	い	味	と	う	か	と	
	で	が	や	ま	な	。	も	試	ざ	け	で	傷	習	は	が	か	を	か	の	あ	す	衝	ひ	
	き	あ	先	た	と		迷	合	を	る	逃	め	は	。	ら	だ	感	も	生	あ	る	動	き	
	る	れ	輩	、	き		惑	に	傷	こ	げ	た	し	。	私	が	じ	し	き	る	場	を	よ	
	よ	ば	の	私	に		を	出	め	と	た	よ	す	。	の	、	て	て	る	合	も	起	う	
	う	他	よ	に	は		か	場	て	に	う	す	ま	。	ク	の	い	い	こ	一	方	こ	だ	
	な	人	う	休	逃		け	す	し	し	に	め	っ	。	ラ	域	る	る	と	方	で	と	す	
	人	に	に	む	げ		て	る	ま	た	に	て	た	。	サ	の	。	。	が	た	、	さ	る	
	間	逃	状	こ	る		。	こ	い	。	思	く	。	。	ッ	。			社	く	社	、	認	
	に	げ	況	と	勇		し	と	、	結	わ	れ	コ	年	で	カ			社	さ	会	社		
500					400					300				200				100						

受検番号

座席番号

総得点
／100